

授業科目(ナンバリング)	国際観光論(CA212) (実践的教育科目)			担当教員	大井田 かおり (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
海外に出た日本人観光客も、訪日した外国人観光客も、文化習慣の違いを楽しみかつそれに戸惑う。日本人を外国へ引率する側が外国文化を熟知していなければ、日本人の評判の低下という国際問題に発展しかねない。また日本人が外国人の考え方を先取りする形で対応しなければ、訪日外国人観光客との間に摩擦や誤解が生じ、反感に発展しかねない。また、文化によって興味も異なる。ここではアウトバウンドおよびインバウンドにおける問題を、文化や考え方の違いから考察する。							①⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	異文化の人の間に入り、両者が納得する形で観光を展開するための説明ができる。文化の違いを活用した観光戦略を立てることができる。				・レポート(授業&期末) ・授業態度・授業への参加度	40% 10%	
情報収集、分析力	文化の違いで生じる摩擦や興味の異なりを予測分析するだけの情報を収集できる。				・授業態度・授業への参加度	20%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	文化の多様性をふまえた観光展開案を提出することができる。				・レポート(授業&期末)	30%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
レポート(70%)、授業態度等(30%)により、総合的に評価する。課題は授業時のものと期末のものを含む。間違っても未熟でもかまわないので、一生懸命考えること。フィードバックは授業中もしくはポートフォリオで行う。レポート等の提出はポートフォリオで行う。							
授業の概要							
担当教員の国内・海外添乗員の経験や知見に基づく実践的な科目である。海外旅行に参加する際、インバウンド観光において外国人と接する機会を問わず、他文化に敬意を払い、文化の違いを楽しむようにならなくてはならない。そのためには、「誠意」はもちろんのこと、予備知識が必要となる。この授業はそうした予備知識を取得し、多文化共生について考えるための基礎力を養う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書&指定図書：内田宗治『外国人が見た日本―「誤解」と「再発見」の観光150年史』中央公論新社 参考書：特になし							
授業外における学修及び学生に期待すること							
日本人学生は積極的に外国人留学生と交流を持つこと。外国人留学生は日本人学生のみならず、母国以外の留学生とも積極的に交流を持つこと。そして、様々な話題で議論することで、学習に深みが出る。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ガイドンスと観光を巡る近年の状況	日本の置かれている国際的な観光の現状を把握する。	『観光白書』アウトバウンドおよびインバウンドの項目に目を通しておく。
2	水資源と国際観光	日本人観光客が最も摩擦を起こす可能性が高い水不足の国や地域への観光について考える。	水不足の国に起こる社会問題について考えておく。
3	宗教と禁忌	国際観光において、宗教における禁忌の問題を取り上げる。	主な宗教の食事禁忌について調べておく。
4	海外の食事に対する先入観と現状	日本人が思い込んでいる海外の食事は現地に行くと違うものであることが少なくない。また、日本食は海外で意外な発展を遂げている。それを楽しむ。	トルコ人にトルコライスを出すとなぜ怒られるか等の習慣の違いを考えておく。
5	世界の宗教事情	宗教はその人々が最も大事にしているものなので、それをないがしろにしているように見えてはいけない。思いやりに必要な知識を学ぶ。	海外の宗教施設に入場する際の習慣を調べておく。
6	戦前日本の国際観光戦略(1)	インバウンド観光客ブームは昔もあった。温故知新。	戦前日本の国際観光の現状を調べておく。
7	戦前日本の国際観光戦略(2) & クラシックホテル	現存しているクラシックホテルは以前のインバウンド観光客ブーム遺産である。日本風と洋風の折衷した戦前の建築物を考察する。	主なクラシックホテルについて調べておく。
8	国際観光に関する Web 技術	国際観光でよく使用する Web 技術について学ぶ	学んだことがない言語の外国語作文の技術などは、復習しておく。
9	コンテンツツーリズムと国際観光	映画、テレビドラマ、プロモーションビデオ、絵画、小説等がきっかけとなる観光を考察する。	コンテンツツーリズムについて調べておく。
10	国際観光におけるビッグデータの活用	国際観光においてもビッグデータは活用されている。現状について学ぶ。	ビッグデータはどのように国際観光に生かされるかを考えておく。
11	観光と時間の観念	観光が変える時間の観念、時間が変える観光の観念を考察。	時間と空間に関する本を読んでおく。
12	リスクマネジメント 災害編	インバウンド観光、アウトバウンド観光共にリスクマネジメントは大事である。災害時のマネジメントを考察する。	災害が起きたら、インバウンド観光客をどのように誘導するかと考える。
13	リスクマネジメント 治安編	インバウンド観光、アウトバウンド観光共にリスクマネジメントは大事である。治安についてのマネジメントを考察する。	治安のよくない国で気をつけるべきことを調べておく。
14	非言語コミュニケーション	言葉の通じない外国人とのコミュニケーションについて考える。	英語も日本語も通じない外国人とのコミュニケーション方法について考えておく。
15	外国人から見た日本の魅力	日本人の気が付かないものが外国人にとっては観光資源になっていたりする。気づきの考察を行う。	「こんなものも実は観光資源になる」という意外なものを挙げておく。